

## 農業及び土壌の放射能汚染対策技術 国際研究シンポジウム 印象記

佐藤 睦人  
*Satou Mutsuto*

農林水産省及びISTC（国際科学技術センター）とSTCU（ウクライナ科学技術センター）が主催する農業及び土壌の放射能汚染対策技術国際研究シンポジウムは、3月8日から10日までの3日間の日程で福島県郡山市にて開催された。東日本大震災を原因とする東京電力福島第一原子力発電所の事故から363日後、しかも被災地である福島県での開催は、この地で生まれ育ち、住んでいる筆者にとって非常に感慨深いものであった。

3月8日と9日は、磐梯熱海温泉にある郡山ユラックス熱海を会場に、国内外の研究者による講演と研究成果の発表及びポスターセッションが行われた。シンポジウムの初日は、建物の外まで来場者の列ができており、関心の高さが伺えた。また、外国からの参加も多数見受けられ、正に国際シンポジウムであることが感じられた（写真1, 2）。

### 基調講演

農業環境技術研究所 宮下清貴理事長による東京電力福島第一原子力発電所事故の農地・農産物汚染に関する報告を皮切りに、福島県農業総合センター 門馬信二所長、全ロシア農業放射線生態学研究所 ルドルフ・アレクサーキン所長、ベラルーシ放射線研究所 ヴィクター・アベリン所長、ウクライナ農業放射線研究所 ヴァレリー・カスパロフ所長、米国 太平洋北西部国立研究所 大西康夫主任科学者の基調講演があった。チェルノブイリ原発事故や米国内の放射性物質汚染に対する事例と具体的な成果、国内で行われている農業分野での研究報告について、来場者が真剣に聞き入っていた。放射性物質の対策は、核種と汚染された土地の条件（地形、土質等）を検討し、その地域にあった手法を組み合わせることが重要とのこと。汚染対策の研究に末席ながら携わる筆者にとって

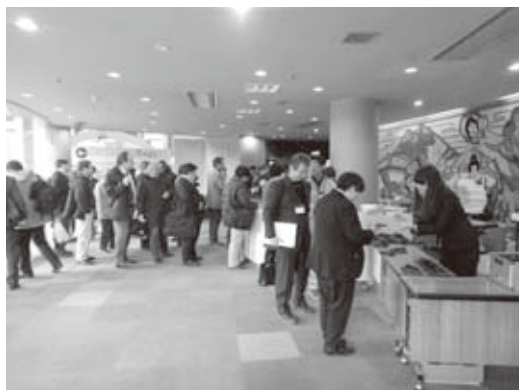


写真1 受付時の様子



写真2 会場の様子

大変参考になった。

### 研究成果の発表（1日目）

基調講演に続き、原発事故直後から研究を開始し、福島県を支援し続けている研究者である農業環境技術研究所 谷山一郎研究コーディネーター、学習院大学理学部化学科 村松康行教授、森林総合研究所 金子真司放射性物質影響評価監、中央農業総合研究センター 木村武土壌肥料領域長から、福島県や近隣県での放射性物質汚染に関する調査結果について報告があった。農地土壌の放射性セシウムの分布状況や、農作物への多様な吸収移行経路やそのメカニズム、森林での汚染実態、実際に現地で行われた農地除染技術や農作物への吸収抑制技術等の研究成果は興味深かった。

### 研究成果の発表（2日目）

シンポジウム2日目は、同じ会場において引き続き研究成果の発表があった。中央農業総合研究センター作業技術領域 長坂善禎主任研究員、農村工学研究所 中達雄水利工学研究領域長による飯館村での農地除染試験の結果や、中央農業総合研究センター土壌肥料研究領域 加藤直人上席研究員による農作物の放射性セシウム低減技術、畜産草地研究所 榎村恭子研究調整役による飼料作物の放射性物質低減技術等、現地で行われた具体的な対策技術についての成果報告があった。特に放射性セシウムの農作物に対する吸収阻害にカリウムが大きく関与していることは、施肥という簡単な手法により農作物への移行を阻止できる技術であり、平成24年度の対策に直ちに活かせると感じた。続いて、放射性物質対策の最前線にいる福島県農業総合センターの3名から、研究内容と成果が報告された。同センターは、現地に密着した様々な調査・研究を行っており、特に放射性物質の農畜産物への移行低減に軸足を置いた試験研究を国や大学等の支援を受けながら実施している。



写真3 ポスター発表

### ポスターセッション

2日目は、農業分野に加えて林業及び水産分野を加えた国内外の研究成果について、計88件のポスター発表が行われた。民間企業の実用的な研究成果の展示もあり、バラエティーに富んだものであった。中でも福島県からの展示が約半数を占め、放射能汚染に直面した地元の頑張りが感じられた。短い時間であったが、セッション会場は人であふれ、あちこちで熱心な質疑が行われている様子から、この問題に対する関心の高さを改めて感じた（写真3）。

### 総合討論

最終日の3月10日は、会場を郡山市内のホテルハマツに移し、農業・食品産業技術総合研究機構の堀江武理事長をモデレータとするパネルディスカッションが行われた。基調講演及び研究成果発表を行った5名の研究者に加え、カザフスタン放射線安全・生態学研究所 セルゲイ・ルカチェンコ所長と東京大学大学院農学生命科学研究科 中西友子教授がパネリストを務めた。過去の原子力発電所事故から学んだ対策、今できること、今後明らかにすべきこと等、各研究者からの発表は大変興味深いものであった。

鹿野道彦農林水産大臣（当時）も会場に來場し、3日間のシンポジウムは無事閉会した。

（福島県農業総合センター）